第１回障害者健康福祉専門分科会意見回答

No.	発言者	該当頁	分類	発言趣旨	市からの回答
1	寺本委員	資料１ P9	プラン骨子案について	問35（学校生活で困った，困っていること）の回答について 「授業についていけない」「友達ができづらい」「先生の理解が足りない」という意見について，どのような対応がなされていますか？現時点での方策を教えてください。	柏市内小中学校の特別支援学級については，柏市教育委員会の指導主事や巡回相談員が直接出向き，実際の場面を観察し，指導方法について助言するといった「巡回相談」を行っております。すべての子どもの成長に寄与するわかりやすい授業の工夫，友達とのかかわり方についての支援方法，様々な子どもの特性の理解啓発等，各校が抱える個別性の高い相談内容に随時対応しております。近年は通常の学級への巡回相談の要請数も増えており，特別支援学級への巡回相談と同様に，通常の学級における特別支援教育についての理解啓発を実施しているところです。また，各種法定研修や，各校の校内研修を通じて，特別支援教育担当指導主事が「子どもの特性の理解と特性に応じた支援の在り方」をテーマとした講義・研修を行い，子どもと保護者の立場に立って考えることの重要性を啓発しております。さらに，個別に御相談があった場合は，直接指導主事が学校に出向き，ケース会議を含む校内委員会を開催し，各校が主体的に課題解決できるよう助言を行っております。ただし，今回のアンケートの回答において，３０％～４０％の方々が項目のような悩みを抱えているという事実について，柏市教育委員会として，真摯に受け止めるとともに，今後も各学校への理解啓発を継続していきたいと考えています。
2	細田委員	資料１ P5,9	プラン骨子案について	・福祉総合相談・丸ごと相談（断らない相談）の実現に向けて 現状どれだけの断られているケースがどのくらいかをふまえ，より具体的に検討してもらいたい。 「来る」人だけではなく，地域でうもれてしまっている人の掘りおこしへの対策も検討してもらいたいです。 ・子どもの成長への支援について 教育委員会とどれだけ連携がとれているか共に検討する機会を増やしてもらいたい。	（福祉総合相談窓口について） 市内の各専門機関（地域生活支援拠点，地域包括支援センター，地域いきいきセンター，地域生活支援センターあいネット）では，年間４万件程度の相談を受け付けており，そのうち２千件程度が各専門機関が受け付けたものの専門外相談です。なお，２千件程度の大半は地域包括支援センターが受付けた専門外相談です。また，障害者ではない場合も含みますが，相談者の中にはひきこもりや８０５０問題等複数の課題を抱えていることも想定されます。 このことから，相談者が総合相談窓口に相談することにより，複合的な課題についてもニーズに対応した専門機関につなげ，連携しながら課題解決に向けた支援を行えるようになると考えております。 また，地域における潜在的な相談ニーズへの対応については，各専門機関の顔の見える化やネットワーク化を進めることで，相談機関からも働きかけ，継続的な伴走支援をしてまいりたいと考えております。 （教委との連携について） 子ども・子育て支援としては，ライフステージの変化を原因として必要な支援が途切れてしまわないようにするために教育委員会・保健所・子ども部等と連携して検討してまいります。